

学校給食における飲用牛乳対応意向調査の結果報告書

令和8年10月

高石市教育総務課

(目次)

- アンケートの概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
- アンケートの結果・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2
- Q1. お子様は、学校給食の牛乳を飲んでいますか？・・・・・・・・2
 - ・ 飲んでいる人の人数・割合
 - ・ 完飲ではないが、少しずつ飲んでいる人の人数・割合
 - ・ 全く飲んでいない人の人数・割合
- 完飲ではないが、少しずつ飲んでいる理由・・・・・・・・・・・・・3
- 全く飲んでいない理由・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3
- Q2. 牛乳をどうしても「飲めない」児童生徒について、保護者が「飲用牛乳停止届」を提出することにより、牛乳の提供を停止することについてどう思いますか？・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・4
 - ・ 牛乳を飲んでいると回答した方
 - ・ 完飲ではないが少しずつ飲んでいると回答した方
 - ・ 全く飲んでいないと回答した方
- 牛乳選択制度の導入について良いと思う理由・・・・・・・・・・・・・5
- 牛乳選択制度を導入する必要がある理由・・・・・・・・・・・・・5
- 牛乳選択制度の導入の是非について分からない理由・・・・・・・・・・6
- その他ご意見（給食全般等）について・・・・・・・・・・・・・7

アンケートの概要

1 調査の背景・目的

この報告書は、今後の飲用牛乳対応について、市内の小中学校に在籍する児童生徒の保護者に対して行ったアンケート結果であり、今後の飲用牛乳の対応の検討に活用することを目的としています。

2 対象者

高石市内の小中学校に通学する児童生徒の保護者 4,032 人
(小学校：2,752 人、中学校 1,280 人)

3 実施方法

インターネットによる WEB 上の入力フォームに回答する方法

4 実施期間

令和 8 年 6 月 5 日（金）から 6 月 1 9 日（金）

5 回答結果の状況

対象者 4,032 人のうち 1,862 人から回答
(小学校：1,391 人、中学校：471 人 重複回答を含む。)

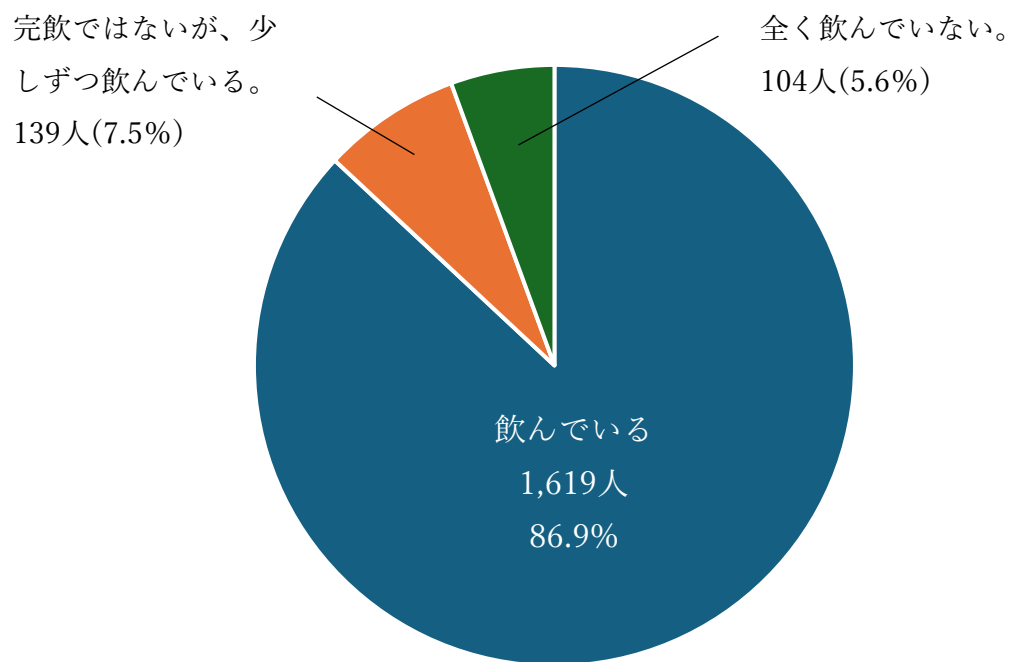
6 調査結果の概要

食品ロス削減の観点から、学校給食における飲用牛乳の対応について意向調査を実施したところ、牛乳を「飲んでいる」と回答した方が最も多く 86.9%おり、次いで「完飲ではないが、少しずつ飲んでいる」は 7.5%、「全く飲んでいない」は 5.6%でした。

また、牛乳をどうしても「飲めない」児童生徒について、保護者が飲用牛乳停止届」を提出することにより、牛乳の提供を停止することについては、「良いと思う」が最も多く 82.4%となり、次いで、分からないが 9.1%、「停止する必要はない」が 8.5%となりました。

Q1. お子様は、学校給食の牛乳を飲んでいますか？

飲んでいる	1,619 人	86.9%
完飲ではないが、少しずつ飲んでいる	139 人	7.5%
全く飲んでいない (理由内訳)	104 人	5.6%
アレルギー	13 人	
乳糖不耐症	18 人	
その他	73 人	
合計：1,862 人		



回答者 1,862 人中、1,619 人（86.9%）が牛乳を「飲んでいる」と回答し、139 人（7.5%）は「完飲ではないが、少しずつ飲んでいる」と回答し、104 人（5.6%）は、「飲んでいない」と回答しました。

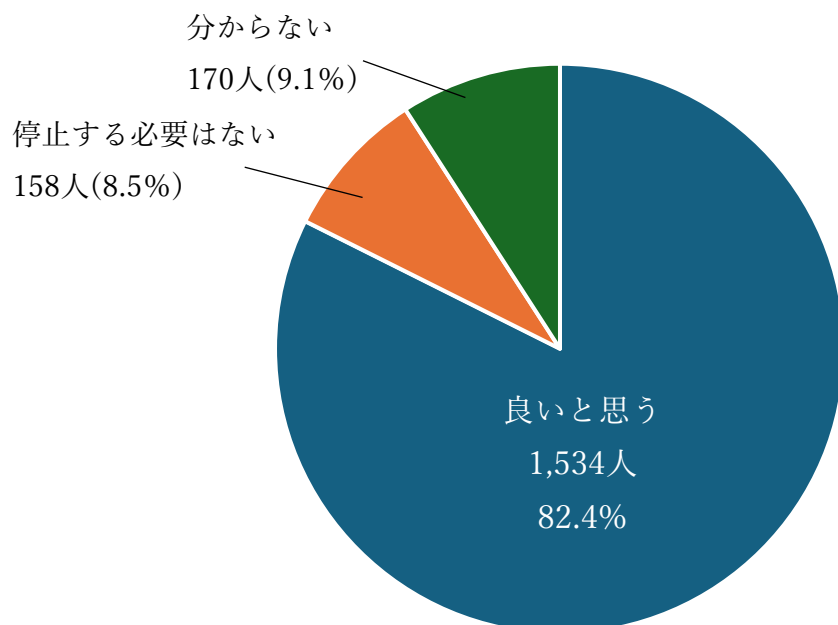
【完飲ではないが、少しずつ飲んでいる理由】は、以下が挙げられました。

- ・味覚・感覚的な苦手意識（計 77 人）
→牛乳自体が苦手、嫌い、味が美味しくない、得意ではない。
- ・身体的な不調
→お腹を壊す・痛くなる。気持ち悪くなる・吐き気がする。アレルギー（疑い含む）、乳糖不耐症。
- ・その他：時間が足りない、量が多い、家で飲む習慣がない等。

【全く飲んでいない理由】は、以下が挙げられました。

- ・味覚・感覚的な苦手意識
→味が不味い、匂いが苦手、吐き気を催すほど嫌いなどの強い嫌悪感。
- ・身体的な不調
→お腹がゆるくなる・痛くなる。吐き気・嘔吐、気分が悪くなる、体に合わないなど。
- ・牛乳そのものへの嫌悪感/苦手意識
→牛乳が飲めない直接的な理由。
- ・乳糖不耐症
- ・アレルギー

Q2. 牛乳をどうしても「飲めない」児童生徒について、保護者が「飲用牛乳停止届」を提出することにより、牛乳の提供を停止することについてどう思いますか。



「良いと思う」と回答した方は、1,534 人（82.4%）、「分からない」が 170 人（9.1%）、「停止する必要はない」と回答した方は 158 人（8.5%）でした。

【牛乳を飲んでいると回答した方】 1,619 人

良いと思う	停止する必要はない	分からない
1,344 人	133 人	142 人
83.01%	8.22%	8.77%

【完飲ではないが少しずつ飲んでいると回答した方】 139 人

良いと思う	停止する必要はない	分からない
102 人	18 人	19 人
73.38%	12.95%	13.67%

【全く飲んでいないと回答した方】 104 人

良いと思う	停止する必要はない	分からない
88 人	7 人	9 人
84.62%	6.73%	8.65%

【牛乳選択制度の導入について良いと思う理由】は、以下が挙げられました。

- ・食品ロス、廃棄削減（計 150 件以上）
→飲まない牛乳を捨てるのはもったいない、無駄をなくしたい。
- ・身体的な理由/無理強い回避
→無理に飲ませるべきではない、アレルギーや乳糖不耐症、体調不良への配慮。
- ・個人の意思/家庭の判断の尊重
→こども本人や保護者の選択の自由、家庭の方針を尊重すべき。
- ・牛乳以外で栄養摂取を代替できる可能性
- ・牛乳以外でもカルシウムは摂取できる、必ずしも牛乳を飲まなくてもよい。

【牛乳選択制度を導入する必要はない理由】は、以下が挙げられました。

- ・栄養・成長への配慮
→成長期のこどもにとって牛乳は重要、カルシウム摂取に不可欠、栄養バランスの観点から必要。
- ・飲めるこどもへの提供継続・有効活用
→飲みたいこどもがいる、余った牛乳は飲めるこどもが消費すべき、おかわりなど有効活用できる。
- ・好き嫌い・わがままへの対応不要論、食育としての価値
→単なる好き嫌いで停止すべきでない、食育として飲む努力をさせるべき、克服のチャンス。
- ・アレルギーとの明確な区別
→アレルギーの場合のみ停止を検討し、それ以外は提供すべき。
- ・家庭での摂取機会の減少
→給食は牛乳を飲む貴重な機会であり、家庭では飲まないため。

【牛乳選択制度の導入の是非について分からない理由】は、以下が挙げられました。

- ・「飲めない理由」や「状況」による判断の複雑さ
→アレルギーと好き嫌いの線引きが難しい、体調や気分によって異なるため一概に言えない。
- ・家庭の考え方・個々の判断の尊重
→各家庭の教育方針や子どもの状況が異なるため、一律の判断が難しい。
- ・食品ロスと栄養（成長）の相反する問題
→食品ロスは減らしたいが、栄養摂取の機会を失うことにも懸念がある。
- ・現場の状況や情報不足
→実際の運用方法（代替飲料、費用、クラスでの不公平感など）が不明瞭なため判断できない。

【その他意見（給食全般について）】は、以下が挙げられました。

- ・給食への感謝と肯定的な評価
→美味しい給食への感謝、無償化への感謝、栄養バランスへの評価。
- ・給食の量に関する要望
→量が少ない（特に高学年）、おかずの増量、物価高騰でも量を減らさないでほしい。
- ・パン、米飯の改善・選択
- ・パンの質改善（大きさ、味）、ご飯の日を増やしてほしい。
- ・デザート・果物の増量
- ・SNSでの情報発信、レシピ公開、試食会開催など。
- ・アレルギー対応への感謝と要望
- ・アシドミルクの不評、冬の牛乳の冷たさ、ストローの必要性、牛乳の代わりに他で栄養摂取、お茶持参の検討、牛乳を任意にして予算でおかず増量、廃棄がもったいない、無理強いしないでほしい。
- ・食材、メニューの改善要望
→魚の骨、唐揚げの提供日、うずらの卵、卵料理、地産地消、和食、特定の組み合わせ（うどんと白米）など。
- ・給食費無償化と質・量の関係
→無償化は良いが、質・量の低下への懸念、費用負担しても良いから質・量を上げてほしい。
- ・食育・指導に関する意見
→残さず食べる指導の重要性、無理強い排除、食育機会の増加。